令和５年度　学校自己評価　　最終報告書

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標			具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	最終結果	分析（成果と課題）
1	授業実践力の向上	①	国語に重点を置き、学部研究の中で指導内容が分かる資料として国語の「教科ファイル」を作成する。授業実践を行い、教科の視点での評価を明確にしたり教材を検討することで授業改善につなげる。	学習支援課	知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校における教科指導の充実事業に合わせ、本校における教科指導の充実を図ることとしている。	【努力指標】（教員） 教科の視点で授業計画を立て、「教科ファイル」を活用して授業内で使用した教材について評価し、授業改善につながる取り組みを行っている。	教科の視点で授業計画を立案、実践して教材について評価し、授業改善に取り組んだ教員の割合が A：８０％以上である。 B：７０％以上である。 C：６０％以上である。 D：６０％未満である。 【達成目標Ｂ以上】	教科の視点で授業計画を立案、実践して教材について評価し、授業改善に取り組んだ教員の割合が93％であった。 【評価　A】	今年度は「教科ファイル」を通して、教員一人一人が自らの教材や授業を改善する取り組みができたと考える。児童生徒の語彙が増えたり、身につけた語彙を授業時間以外でも活用する場面が見られたりしていると感じる教員が多い反面、短期間では明確な変化を感じられない教員もいた。今後は、個人や学部内で取り組んでいた改善を、学部を超えて活かされるしくみ作りを検討したいと考える。
2	地域社会との連携	①	地域にある学校の児童生徒や老人福祉施設、公民館等を利用する地域の方々との触れ合いや活動を共に行うことを通して児童生徒の情操を豊かにし、学校生活をより良いものにする。	総務課	令和４年度は小学部が門前東小学校と２回、門前西小学校と1回の交流を行った。中学部、高等部については以前は門前高校の生徒や公民館を利用する方々と共に活動を行っていたが、近年は一緒に活動する機会が減少している。そのため、地域への理解が進んでいない。	【満足度指標】（地域の方々） 地域にある学校の児童生徒や老人福祉施設、公民館等を利用している方々へ輪島分校の児童生徒について理解をすすめる。	地域の児童生徒や教員、老人福祉施設、公民館等を利用している方々が本校への理解を示した割合が A：８０％以上である。 B：７０％以上である。 C：６０％以上である。 D：６０％未満である。 【達成目標Ｂ以上】	老人施設、公民館への方々へのアンケートは未実施のため 【評価　D】	中、高等部の生徒は公民館で切り絵や水引体験を行った。講師の方から、生徒の作品作りに対する思いや手先の器用さについて感心した、と講評をいただいた。小学部の児童は特別養護老人ホームを訪問し歌や手遊び等で利用者と交流した。利用者の方が涙を流す場面が見られ、知的障害をもつ児童のことを知っていただく機会となった。今後も地域の方々との交流を継続し、理解が深まるよう取り組みを工夫したい。
3	安心・安全な学校作り	①	学校生活や日常生活の中で想定される安全管理、安全意識への理解を深め、冷静に対応できるよう繰り返し指導や訓練を実施する。教職員においては、危機管理意識を高め、実践的な技能をもち危機に冷静に対応できるようにする。	生活支援課	令和４年度は、避難訓練を４回、引き渡し訓練や防災食の試食等保護者との活動を２回実施し、防災リュックの整備も図った。危機は学校内だけで対応できる場合もある。重大な危機が発生した場合は、保護者はもちろん、門前高校、地域との連携が必要となるが十分とは言えず、家庭での備えについても共有する機会が設けられていない。	【成果指標】（保護者） 防災に関する取組みや訓練について情報発信し、家庭で防災に備えた取り組みをすすめている。	防災に関する取組みや訓練について情報を発信し、各家庭で防災に備えた取り組みをすすめている割合が A：８０％以上である。 B：７０％以上である。 C：６０％以上である。 D：６０％未満である。 【達成目標Ｂ以上】	前期は家庭で防災に備えた取り組みをしている割合は47.4％であった。後期は各家庭へのアンケートは未実施のため 【評価　D】	能登半島地震発災後、各家庭へ安否確認をした際、各々環境は違ったが、机の下に潜る、安全に避難する、自分の身を守る等安全策を身につけた行動が見られた。これまでの避難訓練等の防災教育があったからと推測される。引き続き防災教育に力を入れ、、防災に関する資料や校内での取り組み内容を保護者に発信し、情報を共有できるようにしていきたい。
		②	児童生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、安心安全に端末を使用することができる。		GIGAスクール構想によって整備された1人1台端末等を活用した学習活動が行われているが、児童生徒にルールやマナーについて理解を促す必要がある。	【努力指標】（教員） 端末やインターネットの特性と個人情報の扱い方について児童生徒に指導している。	端末やインターネットの特性やモラルについて児童生徒に指導している教員の割合が A：８０％以上である。 B：７０％以上である。 C：６０％以上である。 D：６０％未満である。 【達成目標Ｂ以上】	３学期末に教員へアンケートを実施。全員が指導したという回答で100％ 【評価　A】	児童生徒全員に端末やインターネットの特性やモラルについて生活単元学習の時間等で使用時間や著作権について指導した。児童生徒がルールやマナーを守って活用する意識につながったと考える。現在のところトラブル等はないが、今後も未然防止につながる学習に取り組みたい。